ドライクリーニングでの際つき

ドライ洗剤などの不揮発成分が洗濯物に残留することでシミが発生する事故が生じることがあります。冬物衣料に多い、中わたやダウンを使った製品、高密度織物を使用した製品などは、 今回は、 ドライ洗剤などの残留によるシミ(際つき)について紹介します。

監修/クリーニング綜合研究所

衣類の状態

色になった。中でも縫い目部分 よるドライクリーニングを行っ などで濃色になっているのが目 たところ、 表示を参照して石油系溶剤に 全体的にまだらに濃

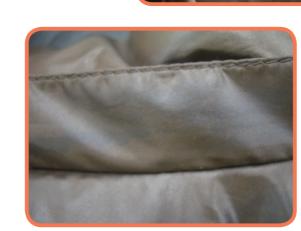
> 中しやすい。 るためにドライ溶剤が移動、集 縫い目部分などは、乾燥が遅れ 縮されたことにより生じた現象。

ることから、シミの成分がドラ やかに吸収して濡れた状態にな 推定できる。 イ洗剤を主体にしていることが シミに水をスプレー すると速

脂コー 物製品などに発生しやすく、 浄液が抜けにくい性質をもつ樹 浸透しにくく、 わたや羽毛を使ったキル このような現象は、洗浄液が ティング製品や高密度織 また浸透した洗 ティ

とする溶剤中の不揮発成分が濃





縫い目部分などが、 濃色になっているの が目立つ

う立 動、集中し、ドライ洗剤を主体 が乾燥の段階で縫い目部分に移 脱液後に残留していた洗浄液

くなるためさらに発生しやすい。 グ製品は、洗浄液の残留量が多

事故の防止対策

適正な溶剤管理を行うことで、 ることが基本となる。 できる限りシミの発生を軽減す とができず、 すすぎ出す工程を実際上とるこ なっているため、ドライ洗剤を とが絶対条件となるが、石油系 1浴循環式**のシステムが基本に ドライ洗剤の残留をなくすこ ーニングの場合には 完全な防止は困難。

なくする 脱液を十分に行い、汚れた洗 浄液の残留量をできる限り少

※1浴循環式…一つの槽内で、ベースタンクから同一

名…ダウンジャンパー

する方式

の溶剤をフィルター循環させて洗浄

溶剤の酸価と着色状態を管理

主なポイントは次の通り。

しながら常に清浄な状態を保つ 石油系ドライクリーニングで

パウダーやろ紙等によるろ

汚れや加工剤などが部分的に 工夫する 集中しないような乾燥方法を

るが、

フィルター性能の低下や

吸着により溶剤を清浄化してい 過と、活性炭や脱酸剤などでの

能力不足、 ともシミの発生原因になる。 れの存在などにより、すべての らの汚れが溶剤中に蓄積するこ することは不可能である。これ 汚れをフィルターで完全に捕捉 吸着性のない油性汚

洗浄時間を適正に設定する

慮して設定する。 汚れが十分に除去されるよう考 り、洗浄時間は、フィルター で洗浄を完了するのが理想であ ルターで完全に除去された時点 クリーニングでは、汚れがフィ を基本とする石油系ドライ 1浴フィルター循環による洗 で

■品

■素

材…表 地:ポリエステル 100% 中わた:ダウン、フェザー ■取扱い絵表示・ ■ **処 理 方 法…**石油系溶剤による ドライクリーニング8分、 タンブル乾燥



光沢のある茶色のダウン